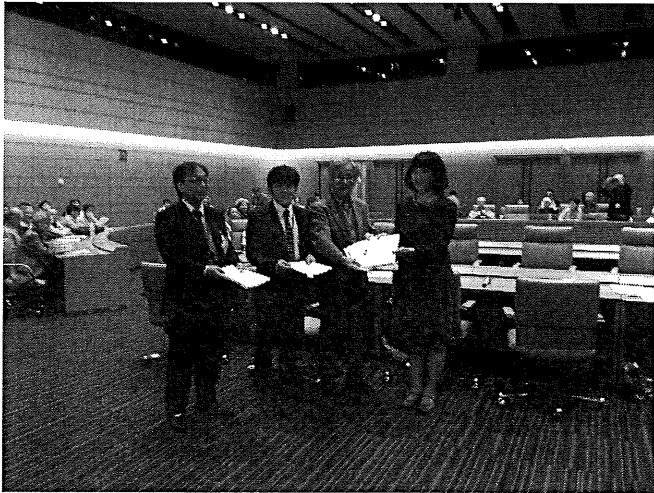


埼玉の くらしと 社会保障

2016年11月1日発行 第247号(毎月1回発行)
発行 埼玉県社会保障推進協議会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-12-8
自治労連会館1階
電話048-865-0473 fax048-865-0483
(ホームページは「埼玉社保協」と検索下さい)

秋の臨時国会、TPP協定反対を訴え 第2回国会行動埼玉デーに93人



10月19日、開催中の第192回臨時国会で2回目となる国会行動・埼玉デーが取り組まれ、6団体から93人が参加しました。

国会内集会では、日本共産党の梅村さえこ衆議院議員がTPPの批准、年金、南スーダンの自衛隊PKO活動、消費税引き上げ延期などが審議されている国会の情勢報告を行いました。特にTPP問題では、食の安全を守る検疫が現状でも不十分で、規制違反の食品が流通してから違反がわかる状態であるのに、TPPによって危険が増すという追究に対して「大きな問題が起こっていないからいいじゃないか」と安倍首相が主張したことを明らかにし、TPPは決して批准できないと強調しました。

33人が参加した医療生協さいたまでは、午後5時に分かれて南スーダンへの自衛隊派遣の中止、戦争法廃止、介護保険制度の改善などを求める議員招請を行いました。日本共産党の紙智子参議院議員と大門実央史参議院議員とは対話ができたと報告がありました。

また、希望者12人が午後のTPP特別委員会を傍聴する予定でしたが、前日に起こった農水大臣の「強行採決」発言によって委員会が開かれず、傍聴することができませんでした。

「折角手配できたTPP特別委員会が傍聴できずに残念でした。またチャンスがあったら、傍聴したい。それにしても、国際会議室の広々とした部屋、テーブルとイスが豪華でした。」とは、参加者の感想です。

(医療生協さいたま 保土田 毅)

社会保障の拡充を求めて、 いのちを守る国民集会に3千人

10・20国民集会

10月20日、日本医労連や保団連、中央社保協が主催するいのちを守る10.20国民集会が日比谷公園野外音楽堂で、北海道から沖縄まで全国から300人以上が参加しました。銀座パレードでは看護師らが「軍事費削って社会保障にまわせ」などをラップ調にアピールし人目を引いていました。集会では日本医労連の中野千香子委員長主催者あいさつ、埼玉県さいたま市で活動するNPO法人ほっとプラス藤田孝典代表が講演、保団連や福祉保育労らのリレートークがありました。藤田氏は講演で格差と貧困が拡大し、社会保障改悪の改悪ストップを訴えました。

埼玉からは埼玉土建からの350人をはじめ埼玉医労連、埼玉民医労、医療生協さいたま等約500人が参加されました。

集会後、主催した実行委員会の代表は厚生労働省を訪れ「国の責任でいのちと人権が大切にされる社会保障の拡充などを求める要求書」を橋本岳副大臣に手渡しました。参加した各代表が発言し「医療費などこれ以上の国民負担増に反対」「国保料の軽減」「保育士、介護士などの処遇改善」などを訴えました。

第109回運営委員会

日時 12月5日(月)14時～

場所 自治労連会館3F

協議事項 第25回埼玉社保協総会について等

「一体改革」を逆転しなくてはと檄をもらった 第44回中央社保学校 in高知県



中央社保が学校が10/6～8に高知県で開催され、10月だというのに日中は30度を超える真夏日の中での開催でした。最初に、神戸大名誉教授の二宮厚美さんから「社会保障の拡充で経済・地域の再生を」との講義を受けました。いま安倍政権のもとで憲法9条と憲法25条の解釈改憲がすすめられている。グローバル競争大国路線にそって「税と社会保障の一体改革」がすすめられており、生存権を侵害する消費税によって社会保障（生存権）の財源にすることはできないと話され、アベノミクスによる不況打開には「税と社会保障の一体改革」を逆転しなければいけない。そのために頑張ろうと檄をもらいました。次に、生活保護裁判を闘っている小久保哲郎弁護士から、生活保護の問題から深刻化する格差と貧困を読み解き、報告がされました。日本の報道では生活保護費が圧迫している→不正受給が横行している→生活保護バッシング、という流れが作られてしまっているが、実際には不正受給は全体の1%にも満たない金額であり、一方で捕捉率（受給を受けれる人で受けている率は）日本は20%に満たないが、スウェーデンやフランス、イギリスは80%から90%と、欧米諸国と比べて圧倒的に低い。社会保障で弱者を助けるだけでなく、そもそも弱者を生まない社会にしていくことが必要と話されていました。2日目には、「自由は土佐の山間より」との言葉の元、自由民権運動が生まれた高知県に触れようと、自由民権記念館と坂本竜馬記念館を見学しました。3日目は、記事の分量の都合上書けませんでした。3日とも素晴らしい講師陣と内容の濃い講義でとても勉強になりました。

(埼玉土建一般労働組合 肝付 賢司)

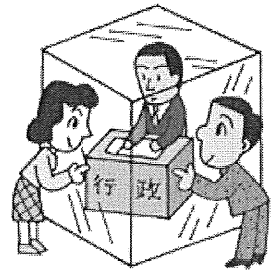
安心して住み続けられるよう要求を出していこう 川越市社会保障推進協議会が総会と学習会

10月8日(土)、やまぶき会館で、川越市社会保障推進協議会の第6回総会と講演が行われました。

総会では、15年度の活動報告と会計報告が行われ、平和があつてこそ、社会保障の充実を進めていくことができるので、県社保協と連携しながら安心して住み続けられるように私たちの要求を出していくことが決まりました。新しい役員が選出され、新会長には、西城千枝子さんが就任しました。

2部の講演では、「どうなる医療・介護～自治体の対応と市民運動」と題して、埼玉県自治体問題研究所の渡辺繁博氏が講演しました。「次々と社会保障が改悪される中で長野県が全国一医療費

のかからない県になっているのはなぜなのか?高齢者が安心して暮らせるまちづくりは、住民の力=自治の力で住民の福祉の増進を基本にすることが大事であり、公民館の職員が住民のひとたちと頑張っているからだと思っています。」また「高齢者の健康づくりはまちづくり!公民館の役割は大きくなっています。講座などの充実が大切、職員と一緒にまちづくりを進めることが重要。」と話していました。参加者からは、身近なところで市の行事に参加しているが、主体性がなかった。どちらかという受け身でした。もっと積極的になっていかなければと思ひ、大変勉強になりましたと感想を話していました。



(川越社会保障推進協議会 守屋 裕子)

学習と自治体への動きかけを強め、 次に繋がる運動に 春日部社会保障をよくする会が総会と学習会



春日部社会保障をよくする会は10月15日（土）、第11回総会と学習会をおこないました。

総会に先立っての学習会は「どうなる医療・介護～自治体の対応と市民の運動」と題し、自治体問題研究所事務局長の渡辺繁博氏が講師を務め、参加者は29名でした。

学習会では長野県が全国一医療費がかかっているのは、なぜか？との問いで始まり、一様に参加者は？？という状態でした。講師から「自治体職員と一体になって公民館で市民が勉強をしているところにある」こと。春日部でも何が必要なのか、特に、医療・介護総合法が成立し、社会保障制度の抜本改悪が本格的に始まっている、高齢者が安心して暮らせる街づくりは住民の力＝自治体の力であり、住民の福祉増進を基本に置く自治体を作る仕事と一体であること、主戦場は地方自治体であることなどが話されました。

来年から完全実施される日常生活支援事業を、国が狙う「安上がりの多様なサービス」にしてしまうのか、市町村の努力で現行サービスを維持・保障できるのか、この動向が要介護1・2の保険外しの行方に大きく影響すること。矢継ぎ早やの改悪に右往左往するのではなく、市町村で事業内容が決められることに着目して、住民が主人公で生きることの保障、主権者として成長していく支援を自治体の仕事として強化すること。学習と自治体への動きかけを強め、次につながる運動になることを意識していきましょうと、結びました。

総会では、2016年度運動方針を確認し、会長に松島捨夫氏、事務局長に吉田昌江氏を再任しました。

（春日部社会保障をよくする会
事務局次長 村松 きみ子）

さいたま市社保協が 国保税等滞納・差押え問題で懇談

さいたま市社保協が10月26日にさいたま市債権回収課と懇談、これに同行しましたので報告します。冒頭荒川会長から「債権回収によって自殺者が発生している。どのように受け止めているのか」と質問し、懇談がはじまりました。しかし、債権回収課の回答では「確認することは困難」と答弁したため紛糾、参加者から何度も繰り返し問いましたが「今後も調べる事もできない」という一点張りの答弁に終了しました。

次に、債権回収のマニュアルが参加者に配布され、この内容が話題となりました。国税法などには滞納者の生活を保障する権利が明記されているが、市の対応を尋ねたところ「納税者の権利」を説明していない事が明らかになりました。また、債権回収にあたり「同意書」についても、「離婚した元妻に記入」させる例がありこれは違法ではないかと指摘しました。担当課からは「一般的には有効ではない」と改善に「努力する」ことを明言しました。市は「納税は義務」「納税者している者との公平性」を強調していますが、「人のいのちより優先」するはずがありません。なお、市議会でも同様の答弁がされています。さいたま市社保協の荒川会長は今後も懇談を継続する予定と決意を語っていました。

（埼玉社保協 川嶋 芳男）

介護の日に介護・認知症なんでも電話相談

11月11日は、「いい介護の日」

**介護・認知症なんでも
無料電話相談**

高齡化がすすむなか、お金の心配なく安心して介護サービスを受けたい、すべての高齢者・家族の願いです。しかし現状は介護現場の人手不足や、「負担が重くサービスを継続できない」「特養に入れない」など悩みは深刻です。その悩みに答える「介護・認知症なんでも電話相談」を行います。介護の専門家、「認知症の人と家族の会」の相談員がお答えします。お気軽にお電話ください！

とき **2016年 11月11日(金) 10時～18時**

でんわ **0120-380110**

中央社保協 中央社会保険推進協議会 公益社団法人 認知症の人と家族の会
TEL.03-5808-5344 FAX.03-5808-5345 TEL.075-811-8195 FAX.075-811-8188

埼玉社保協 TEL.048-865-0473
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 7-12-8-1F

E-mail:k26@shahokyo.jp ※メールでのご相談は左記のメールアドレスをご利用下さい。

お困りの方がいましたらお電話
「0120-380110」をお知らせ下さい。

第37回埼玉障害者まつり

好天に恵まれ4,800人が参加



10月2日(日)、埼玉県障害者まつりが障害者交流センターを会場に開催しました。全県から4,800人が集い、多様な取り組みを楽しみました。

今年は、社会から根っこから差別をなくしていきましょう！—障害者差別解消法スタート—をテーマにしました。「埼玉では今、1,400人が入所施設の待機者といわれています。近くに入所施設やグループホームがなく、住み慣れた地域から離れて他県の施設に入所している人もいます。サービスを利用したくてもヘルパーが足りないということも起きています。施設はできても、職員が集まらないところもあります。障害児学校では、生徒が増えて教室が足りなくなり、特別教室が一般教室になっているところもあります。これも差別ではないでしょうか」とチラシに書きました。このことは、テーマ作成後におきた、やまゆり園事件にもつながるものでした。シブジウムも、事件をテーマのひとつに取り上げました。

今年は、五年ほど前に一度浮上した「宇宙食」を採用し、当日、試食コーナーを設けました。

臨時バスや駐車場の位置情報を知らせることを企業の協賛という形で取り組みました。

浦和見沼太鼓の演奏や子ども広場の充実。幻想的な影絵や、射的、輪投げなども取り入れ、好評で景品が無くなってしまいました。

今年も、親子の大道芸に大きな拍手が送られました。プロレスの場外乱闘に沸き、似顔絵では「休めなかった」と言われるほど賑わいました。

二階では、戦争展と障害者関係のビデオ映写を行いました。昨年好評だった「びゅーちふるず」の歌と踊り、初参加のフラダンス、手話ダンスなど企画も盛りだくさんになりました。

健康マッサージ、年金相談、精神障害家族会も相談コーナーを設けました。体育館も昨年不参加の「共遊球技」も加わり、各種目に人が並びました。

IMOバンドの演奏で中央舞台が、唐土久美子さんの歌で室内舞台が締めくくられました。

今回も、埼玉障害者まつりに、多くの参加者がありました。無事終わることができました。皆様のお力添えをいただいたことに感謝します。

(SSC埼玉障害者新聞より抜粋)

第1回常任委員会

日時 11月21日(月) 14時～

場所 自治労連会館3F

常任委員の方は是非ご参加ください。

第25回埼玉社保協総会

日時 12月17日(土)10時～16時半

会場 ときわ会館 5F・大ホール

午前は9:30 開場/午後は13:00～受付

10:00 埼玉社保協総会

12:30 休憩

13:30 記念講演&対談/全体討論

16:30閉会

午後の記念講演&対談

どうなる? 介護保険

○花俣 ふみ代さん

(認知症の人と家族の会埼玉県支部代表)

今年度は「介護保険改悪案をつくらせない」のために、「介護保険部会」でご奮闘され大きな役割を發揮されたご経験をおおいに語っていただきます。

○芝田 英昭さん

(立教大学 コミュニティ福祉学部 教授)

ニュージーランドへ行き、「介護」の実態を研究されています。私たち日本に生かすべき教訓をお話いただきます。

フロアからの発言も行っていただき、今後の介護保険のたたかいの方向を考えます。

チラシの申込用紙にご記入いただき社保協へお送り下さい。埼玉社保協ホームページにチラシを掲載しています。

締め切りは12月8日(木)です。

参加費は無料です/お弁当1,000円(注文下さい)

午後の講演はどなたでも参加できます。

25条大集会

すべてのくらしは25条から11.26埼玉集会

■日時・会場など

2016年11月26日(土) 13:30開場、

14:00開会、16:40閉会

埼玉県民健康センター2階大ホール

■基調講演 芝田英昭立教大学教授